

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回のミーティングの時にスタッフで話し合い、理念についての考えを再確認し、意識統一を図り実践に繋げている。	「自分らしく明るくのんびりと」の理念を室内に掲示し、オーナー自ら、現場に入ってスタッフと共に、意識統一を図っています。また、日頃の業務の中での「気付き」を個々のスタッフに聞き、タイムカード横に掲示することで実践につなげる様、努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の生活の中で散歩に出かけ、地域の方との交流をしている。又、行事の時には地域のボランティアの方達を招き、交流をしている。	利用者さんと地域とのパイプ役を、スタッフ自ら声かけ運動を行なうことで、近隣との良い関係づくりが行なわれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	取り組めていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回行う際、入居者家族の代表者、民生委員、市役所職員の方に参加して頂いている。又、毎回では無いが他職種の方を呼び、講習して頂く事で、サービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回、定期的に運営推進会議が開催されており、行政や警察、消防署の参加もある。活発な意見交換の中から、地域への働きかけを行なっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に一回の運営推進会議、ホームの敬老会、餅つき等の行事や催し物には必ず参加をして頂いている。又、介護保険の事で疑問に思う事は相談にのってもらったりと交流が常にある。	ホームの行事等にも、行政の方からの自発的な参加依頼がある。また、スタッフだけでなく、利用者さんとの関係も良好である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	立地上、通行人が少ないが車の通りは多く、事故が起こる危険性がある為、玄関のみ施錠している。毎回ではないがミーティング時に身体拘束についての勉強会を行っている。	ホームでの研修に「利用者体験」を取り入れ、利用者さんの気持ちを理解しながら、身体拘束をしない、自由な環境作りに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎回ではないが、ミーティング時に虐待についての勉強会を行い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	取り組めていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事務所、ケアマネージャーが契約時等、家族の方に説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先にて要望を入れる箱(ご意見箱)を設置している為、そこへ入れてもらったり、直接職員に伝えてもらったりしている。要望が出た場合、ミーティングで話し合いを行っている。	玄関口に「意見箱」を設置していますが、事前に苦情や相談を直接ご家族に伺う体制が整えられており、解決に向けての速やかな対応を取る支援が行なわれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時、意見や提案を聞き、それを役員会議にて提示し検討してもらう。検討結果を再度ミーティング時に職員におろしている。	オーナー自ら、現場に入り、入浴介助をするなど、介護にたいして積極的であり、スタッフの意見も取り入れながら運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格保持者(中途でも)等、資格を保持したものについては資格手当を支給している。行事等、担当者が全て企画し、実行する事で達成感や責任感をもてるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の講習、研修を個人の技術や知識の向上の為に必要と思われるものにおいては、勤務時間内、または、勤務扱いにて参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が主催のグループホーム連絡会に参加したり、県下の福祉施設に実習に行ったりして、他施設のサービスの良い点を取り入れる等して質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接の際、家族・本人より話を聞き、入所後の対応に関してスタッフ間で統一するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者本人・家族の方と話をすることで情報を把握し、当ホームにて可能な事を確認し、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で可能な限り、一緒に家事・食事を行う事で関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方の面会(来訪)時や毎日の手紙で入居者の様子・状態を知らせたり、必要であれば電話にて話をさせて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人に手紙を出したいと言われる方や話したいと言われる方には支援している。(家族以外の方の面会がある場合は家族に確認し、了解のもと面会に来て頂いている。)	利用者さんが大切にしてきた関係づくりが途切れないように、友人や家族が来訪しやすいような関係づくりが保たれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりの性格等を把握し、入居者同士が関わりあえるような空間作りを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方に関して、相談等あればその都度相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	時間が可能な限り話を傾聴し、入居者の方の希望や意思を把握する様努めている。	個々の暮らし方の希望や家族の意向など、できるだけ業務の手を止めてでも伺うようにしている。また、言えない利用者さんに対しては、落ち着いた雰囲気の中で個別に伺いながら、プランづくりに役立っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接にてその方の情報を知り、把握する様努めている。(家族にも情報聞いている。)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌・生活記録(個人別)に記録し、現在の状態・様子の把握に努めている。発熱等体調不良時は別紙(特変事記録)に記録し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティング・本人希望・家族面会時など、意見を聞いた上で必要な介護計画を作成している。	「利用者体験」をすることで、利用者さんの気持ちを汲み取りながら、また、本人やご家族の意向を伺いながら、介護計画の作成を行っている。	介護計画の中で、利用者さんに対しての「総合援助方針」において、施設でのケアの方針を「どのように支援していくか」を具体的に記述をされると、ご家族やスタッフ間でも、解りやすく良いと思いました。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・結果、気づきや工夫等、情報共有する為に申し送りノートやミーティングにて記録している。それらを参考に見直しを行っている。(モニタリング)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状態・状況に変化があればその都度、サービスの見直しを行い、その方に合ったサービスを提供させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に民生委員や市役所職員が参加する事で、関係が強化に繋がり、周辺情報や支援に関する情報交換をする事で、安全で豊かな暮らしを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはかかりつけ医には受診せず、月2回、往診して頂いている。(かかりつけ医以外の病院に関しては受診する形をとっている。)	医科、歯科共に、往診体制が整えられており、また、緊急時に備えての入院先の確保もあり、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームでは看護職員は不在の為、取り組めていない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には付き添いを行い、入院中には定期的に面会に行き、病院関係や家族と話を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族の方に医療の必要性が高い方や終末期について当ホームでは対応出来ない事を説明している。上記の事が必要になった場合は、かかりつけ医に病院を紹介してもらおう様にしている。	終末期ケアに対しては現在の所、事例がないようですが、主治医と家族との話し合いにより、対応していきたいと考えている。	利用者さんの重度化に向けた、支援体制を整えることで、利用者さんやご家族が安心して任せられることができる施設になっていくことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時には管理者に連絡し、指示を仰ぐ様に徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(3月・11月)避難訓練を実施している。(緊急時対応・連絡網を貼っている。)	避難訓練は行なわれていますが、地域との協力はまだ得られていないようです。	住宅地にある施設と言うこともあるため、災害時において近隣の協力を得るような避難方法も検討していくと良いと思いました。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の方のプライドを傷つけないように生活上の失敗があっても、フォローに入る様に対応している。	個々の人格を尊重した言葉かけや対応に注意しながら、日々のケアに取り組んでいる。	経験の浅いスタッフに対しても「利用者体験」を通して接遇研修も取り入れて行けば、より一層、ケアサービスの質の向上に繋がっていくと思いました。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者に自己決定してもらう為に、何に対しても選んでもらう様、働きかけている。希望が出た時はサポートする様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活リズムを崩す事がない様、その日の状態に応じて1日を過ごして頂ける様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	取り組めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者個人個人のレベルに合わせて手伝いをする際には、担当を決めている。(スタッフと一緒にすれば全員手伝いが出来る。)	家庭菜園で採れた食材を使いながら、スタッフと利用者さんが、家族のように笑いながら調理している姿に、ホーム内の暖かさが伝わってくる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の把握の為、チェック表を作成。栄養が足りない方には栄養補助食を取り入れ、水分が足りない方には点滴を取り入れる。(上記は最終手段)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア(歯磨き・うがい・口腔清拭)の実施。週1回、ポリドントにつける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握を行い、声かけ・誘導を実施。又、本人の出すサインを見逃さない様に心掛けている。	スタッフ全員で入居者個々の排泄パターンを理解し、オシメから布パンツへの自立に向けた支援が提供されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は栄養が偏らない様に気を付けている。又、日々の生活の中で運動を取り入れたりもしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	取り組めていない。	利用者さんが気持ちよく入浴できるような環境や言葉かけに留意しながら、利用者さんの希望で不安なく入浴できるような体制が整えられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転の方には日中身体を動かしてもらったりと、生活のリズムを変える様に心掛けている。又、寝付きが悪い方にはホットミルクを飲んでもらい、安眠できる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の方の状態に応じて、かかりつけ医と相談した上で、薬の調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が楽しめる事・意欲的に手伝って下さる事を提供し支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人から希望があれば、散歩・ドライブへ行くようにしている。又、行事の際には必ず家族へ連絡し参加して頂いている。	近隣へのドライブや外食も気軽に行っており、買い物などは、利用者さんと一緒に行き食材を決めたりしている。日常生活の中で喜びが持てるような支援が行なわれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所が管理している。外出した時等は一人ひとりに支払ってもらっている。(スタッフと共に)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望又は外部からの電話がある時は、ホームの電話にて話して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除。季節に応じて壁紙を変えたり、カレンダー作りをして生活感や季節感を取り入れている。	美しい日本庭園や家庭菜園が共用スペース内から見えて、利用者さんの心が癒されているようです。また、室内の喚起にも気をつけており、病気の予防にも注意しながら、居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたい方は自室で過ごされています。フロアでは人が集まってきやすい様に、椅子・ソファの配置を工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居するにあたって新しく買わない様に親しんだ物を持って来て頂ける様、依頼している。	居室内には、利用者さんの思い出の家具や持ち物などが持ち込まれ、家庭の延長のような雰囲気、居心地良く過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者のレベルに合わせて出来る事を見つめたり、他者と一緒に出来る事を見つけてそれを生活に活かせる様に工夫している。		